

<今回>297回目 2021年7月5日(月)15時~18時 第9会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p324、日出ずる処 より

<前回>296回目(21-6-21)出席者 9名

資料(21-06-21-1)前回のまとめ(清水)

(21-06-21-2)日程表(清水)

A 報告 ワクチン接種の1回目が約半数の方が終えられた。かながわ労働プラザの新しい場所は2回目となり、
独り置きに座るとほぼ満員となった。次々回の7月23日は清水の2回目のワクチン接種の2回目翌日になるので、
勝手に26日(月)に変更、部屋も8階第1会議室になったので注意してください。

B資料 2)今年12月分まで予約を完了している。

C読書 東西5月行南北3月行

1)倭国伝(隋書東夷伝)の最初に倭国の国境に至る距離が記される。夷人里数を知らず、但々計るに日を
以てす。四方海に至る。東西行(横方向)は九州島だけにとどまらず、日本本土の中国地方、四国へもつなが
る。(今までは中国四国の西半分くらいが九州倭国の勢力圏と考えられていたが)。日本列島全体を指している
という。(ことは言うまでもないと、ここで思考を停止している)。行という概念は陸行水行の両者を示している。

2)南北3月行は、対馬—壹岐—九州本島—種子・屋久—奄美諸島—(沖縄)(と、どこまでも拡大縮小できる
解釈で論理的ではない。)

東西5月行は、東端は青森県か北海道か。その北、東北方向に連なるかは明らかでない。(半年でペルーまで)

3)倭王は自ら天子と名乗っている。中国大陸に対して、東方の海上の島々を広汎に自らの天下にあるものと
称している。国境の概念が現代では当たり前だが、半島の国でも国境の言葉は当時は使われていない。

4)中国の天子の都を中心として、四至の辺境を指す概念で倭王もそれに準じて倭王の都を中心とした概念でも
って東西南北を表記した。以上の理由で都は近畿大和になく、九州であることを示している。(相当な強弁に類
する論理である)

5)清水は東西は横方向を示すものではなく東、西を一文字に解して縦方向を示す、東と西は5月行と読み、
南と北も一字読みで3月行と読み、九州島の大きさ縦横比を5:3の比で表し、四至海の重視を唱えてきた。距
離に換算すると大きすぎると思ったが三国史記百済紀に都から済州島に行くのに3か月の表記を見つけて、九
州島の横幅相当とみなした。タムラ島も東西数百里、南北千四里とあり、島の横長の形状から1字読みを思い
ついた。これに対して中国史書にその使用例があるのかという弱点の指摘が大墨氏からなされた。

6)大きさ、東端についても初田氏より異論が出され、これらに関連して、各人から様々なご意見が出されて時
間まで懇談を続けた。

次回日程 2021-7-26日(月)15時から18時 かながわ労働プラザ第1会議室(8階) 変更、もと23日

—8-13日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—8-23日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—9-10日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室